

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意識づけとして、毎日朝礼時全員で唱え、理念を基本とした業務に取り組んでいる。	法人とホームの理念をホール掲示板に掲げ誰にでも分かるようになっている。日々の朝礼において理念及び活動目標「わたくし達の決意」を唱和し徹底を図っている。理念にそぐわない言動が職員に見られた場合には管理者が個人面談を行い注意を促し、認知症についての理解を更に深めるように指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期ボラ以外にも季節行事にて地区の子供たちが立ち寄り、一人暮らしの高齢者の方へ行事参加の呼びかけをしたり偶数月にお茶処を開設した。地区・老健利用者・デイ利用者家族に呼びかけている。	ホームを含め敷地内に併設する五つの施設の中でホームとして特徴のある活動とを考え、偶数月の第2土曜日に御茶会「よったいや」を開催している。案内状を作成し職員が近隣のお宅にポストインし、のぼり旗を揚げ開催している。隣設のコスモホールでボランティア行事のある時には一般の方対象に介護相談会も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や包括にて相談会に出席し、理解や啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御利用者も参加して頂き現状報告・事故報告・毎回テーマを決め防災・感染・食中毒など色々な意見を聞きながら学びの場での活用になっている。	利用者2名、家族代表、地域代表、地域消防団員、民生委員、あんしん(介護)相談員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者が参加し2ヶ月に1回行っている。活動報告などを行い意見交換し、要望等をいただく中で具体的なアイデアや提案も多く運営に活かしている。また、毎回テーマを決め勉強会を実施し有意義な会議となるよう進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席される介護保険課担当職員やあんしん相談員に日頃の事や取り組みなどを伝えている。	地域包括支援センター職員とはボランティアの取り纏め等で連携し、様々な相談をしている。市から派遣のあんしん(介護)相談員も毎月来訪し利用者と交流し口頭にて結果報告がされている。市主催の研修会にも積極的に参加し、市内の福祉センターで行われたケアマネージャー研修会には管理者が講師として参加したという。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言動・態度などの取り組みの中でも拘束しないケアに努め朝礼終礼の申し送りでの目標に取り入れている。	身体拘束については年1回行われる研修会で徹底を図り拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠している。外出願望の強い利用者には話をしたり、ドライブに出掛けたりして対応している。転倒防止を図るため音感センサーを使用することがあるが、できるだけ使用しないで済むように工夫している。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年法人研修にて学び職員間で共有し再研修している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議にて議題とし学ぶ場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族とこまめにコミュニケーションを摂り御利用者の様子を伝えたり話の中で御家族の気持ちをくみ取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠慮なく着て頂ける様毎月の行事への参加の呼びかけ回数を増やした。なじみの関係になり話しやすい環境づくりをしている。	利用者のホームでの活動の様子を載せた「グループホームコスモス長野通信」を毎月発行し、個人別生活記録と合わせ月1回家族にお知らせしている。家族会も年2回、敬老会と新年会を兼ねて行い、毎回、14～15名の家族の参加をいただき交流を深め、意見・要望なども頂いている。誕生会は一人ひとりの生まれた日に行い、花をプレゼントし、午後3時のお茶の時間にロールケーキなどを食べお祝いしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員全体会議で出された問題や提案をホーム長会議で発表したり代表者に反映していく機会がある。	月1回全員参加で行われるセクション会議で法人会議の報告やケア会議、勉強会、意見交換などが行われサービスの向上に活かしている。人事考課制度が導入されており、年2回行われる自己評価の後、管理者が個人面談を行い希望を聞き、また、法人の方針なども伝え、職員の意識の向上に繋げるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価が年に2回あり実績や努力は代表者に伝えられる機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じ内外での研修に参加している。指導者研修を受けた職員が新人職員の指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信地区のネットワークに加入しており機会を利用して一緒に研修会や悩み相談の取り組みなどの交流がある。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面接の段階で困っている事実情を把握しながらサービスの確認・提供をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに着易い環境を作り放す機会を多く持っている。生活記録にてどのような暮らしをしているか御家族に書面にて伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時本人や家族の望む事を聞き話し合いをし何が必要なサービスなのか見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、手伝いが必要なことを把握し共に家事などを行い多くを職員が教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の想いに寄り添いながら関わりを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出希望があれば実現しており来訪者とはお茶を飲みながら面会してもらっている。手紙や電話の希望にもそえている。	電話を希望される利用者には職員がお手伝いし電話を掛け、関係の継続を図るよう取り組んでいる。行きつけの美容院に家族と出掛ける方もいる。遠方の家族が来訪し、食事やドライブ、デパートへの買い物などに出掛ける利用者もいる。また、利用者同士話しているうちに盛り上がり、居室を行き来し過ごしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良く楽しく過ごせるように席替えや入浴に気を配っている。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて近況を聞いたり行事への参加を呼びかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を第一に日々の会話の中で何を望んでいるか気持ちを把握し実現できるように努めている。家族にも伝えている。	ほとんどの利用者は自分で意向を伝えられる。一人ひとりの一番好きなことは何か、何を望んでいるのかははっきりと問い掛けるように心掛けている。日々の「つぶやき」を記録に残し、朝礼、申し送り等で情報を共有し支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取りにて情報収集し全体会議にて説明し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・朝礼・終礼にて職員全員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族又身体的な見極めとして医師・看護師に意見や希望を聞いている。本人の現状に合った計画を作成している。	職員は居室担当として1名から2名の利用者を担当している。全職員が1階、2階それぞれのユニットをローテーションで勤務し利用者の支援に取り組んでいる。月1回のセクション会議の中で居室担当を中心に全員の意見を聞きモニタリングを行い計画作成担当者や管理者に報告し3ヶ月に1回見直しを行っている。また、状態の変化により、随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間を追った記録をしケアプランのケア内容・発語・表情なども記録し申し送りや朝礼・終礼にて共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の老健のPT・ST・相談員などにアドバイスを貰ったりしている。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や家庭内の行事に参加したり季節によっては近くの寺や公園で時期のものにふれあい暮らしのなかにもメリハリをもてる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院にも一緒に付き添ったり本人や家族が希望する病院との関係も築き情報の共有をしている。	利用開始時に希望をお聞きするが、現状は法人内クリニックの月1回の往診での対応となっている。歯科については必要に応じ職員がお連れし、その他専門科の受診に付いてはご家族にお願いしている。法人内の訪問看護師が週1回来訪し、24時間対応で医師やホームとの連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅管理指導などで薬剤師と本人又は訪問と相談しながら適切な受診ができるような支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設されている病院に緊急で入院できたり看護師が24時間体制で対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意思を尊重し充分に出来る事、出来ない事を話し合い希望に沿ったケアが可能か見極めできる支援に努めている。	利用契約時に「看取り介護」の同意書を頂いている。本人の状態が低下し、家族の気持ちがホームで最期をと固まった時、医師や訪問看護師と連携を取り、また、ご家族の希望を聞きつつ職員間で話し合いを行い、希望に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の老健での内部研修で学んでいる。定期的に行われている全体会議にて内容を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上防災訓練実施。また運営推進会議にて話し合いを設けている。	年2回以上、夜間、昼間想定訓練を行い、訓練計画書を提出し、消火、通報訓練を消防署立会いの下実施している。利用者も全員参加し、訓練の様子はお便りに写真と共に掲載し紹介している。地震想定に対応マニュアルが法人として作成されており、ホームでアレンジし周知徹底している。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	分かりやすく丁寧な言葉掛けをしている。押し付けや命令にならない様尊厳を大事にしている。	利用契約時の情報を職員間で共有し全てのキーパーソンに確認をすることとし、外に漏れないようプライバシーの保護に配慮している。居室に入る際はノックをし、呼び掛けは親しみと尊敬の念を込め苗字、名前に「さん」付けでお呼びししている。プライバシー保護の研修会を行い支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境作りに努めており日頃から要望を聞いたりし、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の1日の流れはあるが、気持ちを大事にし希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声かけをしたり職員の提案で身だしなみやオシャレができています。定期的にヘアカットし好みを聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けを職員と行い献立も希望により変更している。	殆どの利用者は自力で食事ができ常食である。毎日、お手伝い当番の二人の利用者がおり、下ごしらえ、調理、食前食後の挨拶、片付けまで行っている。職員の多い日はファミレスに出掛けたり、年1回はお寿司の日としてお寿司とラーメンを食べに出掛け喜ばれている。更に「お好み焼き」や「こねつけ」、「おやき」などを全利用者で作り楽しんでいる。家族や近所から野菜の差し入れがあり調理に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立にてバランスの良い食事が提供出来ている。飲み物は個々のこのみを聞き提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ケアし、口腔内のトラブルはないか確認している。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく布パンツで対応している。様子や時間でトイレ誘導している。	トイレでの排泄に心掛けている。三分の二の方が布パン使用で、リハビリパンツ、パット使用の方を含め毎食前、就寝前など時間で声掛けを行いトイレに誘導している。オムツの方も若干名いるが尿意のある方はトイレにお連れしている。排便チェックは日中に行い、夜間のみ排尿チェックを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の有無を確認し水分補給や体操をしている。又医師に相談し下剤の処方や看護師による浣腸を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが変更可能となっている。希望に沿った時間帯に入ってもらっている。	入浴は週2回以上行き、大きな浴室で二人ずつ楽しく入浴している。希望があれば日曜日に老人保健施設の大浴場にて温泉気分を満喫している。水虫予防のため週2回足浴を行っている。「ゆず湯」、「ひまわり湯」等、各種入浴剤でお風呂を楽しみ、家族と温泉に行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調に合わせて休憩時間をとったりしながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を共有確認し体調管理をしている。体調不良や内服薬が変更になるなどの時は申し送り・朝礼・終礼で報告確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々から何をしたいか、好きな食べ物は何かなど話題を提供し情報収集しながら楽しみを探っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出は相談しながら実現できるよう努めている。ホームでは天気の良い日はほぼ毎日戸外に出て散歩したり体操している。行きたい所を聞いたりして年間で遠出の計画もできている。	外出時、車イスの方が若干名いるが殆どの利用者は自力で歩くことが出来る。天気の良い日には敷地内の老人保健施設の周りを連れ立って散歩している。訪問調査日も笑顔で歩く様子を見ることができた。年間の行事計画で花見、ボーリング、紅葉狩り、外食会など、ほぼ毎月外出し、楽しむ機会を設けている。また、来年の正月には善光寺に初詣に行く計画も立てている。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっており必要なときには本人と共に買い物の行ったり職員が代わりに買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿いはがきや切手を購入したり家人や知人の電話の取次ぎができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温湿度に注意し過ごしやすい環境を整えている。又季節に沿った飾り付けや外出時の写真を貼るなどしている。	開設16年を迎えた当ホームであるが整理整頓が徹底され、異臭もなく清潔感が溢れている。共用部分は床暖房とエアコンの併用で快適である。壁には各行事の記念写真や利用者の作品が飾られている。そのような中、にこやかな笑顔で体操をし歌を歌い、職員と楽しそうに会話を楽しむ利用者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休みたいときも自由に休息したり仲の良い者同士で居室で雑談したり訪室しあったりしている。特に工夫しなくても自由な空間を生み出している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の日常生活を知り畳みを敷いたりなじみの物を設置している。希望があれば意思に沿っている。	各居室には洗面とクローゼットが備え付けになっており、希望によって和室対応の方もいる。掃除が行き届いた居室には使い慣れた家具や小物、仏壇等が配置され、家族の写真、ご自分の作品等も飾られ、思い思いの生活を送っていることが見て取れた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者同士が補い合い生活している。安全を見守りながら自立支援している		